

essay

学院歴史エッセイ

桃山学院125年

— 第1の25年間(1884-1908) —

英国聖公会宣教協会(CMS)は1884(明治17)年9月、大阪川口居留地に二つの学校を開設した。三一小学校は大阪聖三一教会の裏手の部屋で、三一神学校は煉瓦造2階建の校舎での開校である。前者は信徒子弟のため、後者は聖職者養成のための学校である。三一小学校は翌年初め、居留地内に新築移転する。

CMSは1890(明治23)年1月、二つの学校をつなぐ新たな学校として、大阪市西区江戸堀の仮校舎で高等英学校を開校した。東成郡天王寺村字中山(通称「桃山」)で建設中の校舎が開校日までに間に合わなかったためであった。

高等英学校は1890(明治23)年12月に移転、翌年1月に開校式が挙行された。新しい学校の教育方針は、「主ニ英語ヲ以テ実業ニ就カント欲スル者ニ須要ノ教育ヲ施ス」とあり、英語重視の学校であった。しかし、英国式の厳しい指導についていけない生徒たちの退学があり、経営的に困難な状況が続いた。1897(明治30)年までに入学した320名の生徒のうち、卒業した生徒は20名である。

CMSは1893(明治26)年4月、日本人副校長として本田増次郎を招聘した。改革は次々と進められた。1895(明治28)年に学期始めを4月に変更、

また校名を桃山学院と改称、翌年には桃山学校と改称した。学科課程も尋常中学校程度に改定した。その結果、生徒数は増大した。

1899(明治32)年は試練の年で条約改正の結果、内地雑居により、キリスト教の拡大を恐れる政府は文部省訓令第12号を出し、学校内での宗教教育を禁止した。一方、上級学校への入学資格や徴兵令延期の特権などもあり、CMSは認可中学校開校への準備を進めた。

1902(明治35)年4月、大阪で最初の私立中学校として桃山中学校が開校した。高等英学校の時代から英語に重点をおいた教育により、英語に優れた卒業生を多く輩出した。生徒数はさらに増加し、1908(明治41)年には400名を超えた。

(西口 忠 / 桃山学院史料室)



桃山中学校大運動会 記念絵葉書(1907)

※ 6～8頁に関連コラム「歴史のいずみ」を記載しています。

CONTENTS

- 01 コンテンツ(目次)・学院歴史エッセイ
- 02 理事長挨拶
- 03 記念事業計画－組織図・記念事業委員名簿
- 05 記念事業進捗状況－桃山学院中学校の開校について－総合教育棟建設の狙い－「第二体育館」建設基本構想について－文学部が「国際教養学部」へ－歴史のいずみ
- 09 芳名録・凡例・寄付金申込状況
- 13 メモリアルインタビュー